

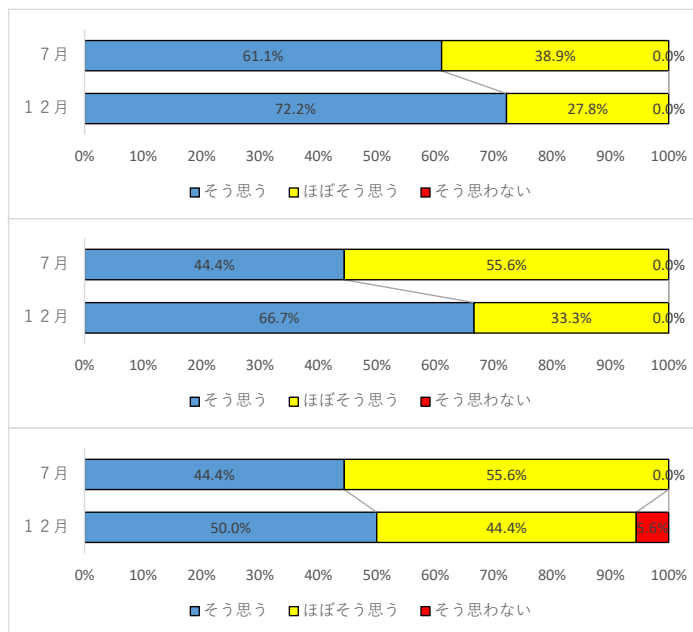
令和6年度学校評価アンケート結果（教職員）

1 特別活動

①教職員共通理解のもと「岩成っ子タイム（SST・SGE）」が実施されている。（教職員研修・ミニ研修等）

②「岩成っ子タイム（SST・SGE）」で児童のコミュニケーション力が育まれるよう活動のめあて、展開、振り返りを工夫している。

③異学年交流の機会を積極的に設けることにより、児童同士の人間関係づくりに効果が見られる。（思いやり、リーダーシップ、フォローシップ等）



<取組状況>

1-①

- ・「岩成っ子タイム（SST・SGE）」は毎週木曜日に計画的に実施され、教員の共通理解のもと、児童が楽しみにしている活動として定着している。
- ・新しい活動に入る前にミニ研修を行い、教員が計画を理解し指導にあたり、実施後には研修リーダーが教室を巡回して改善点を即時共有・修正したりできている。
- ・研修リーダーによる定期的なミニ研修により、指導の質を高める体制が整備されている。
- ・教科学習にもSSTやSGEを意図的に取り入れ、挨拶や会話スキルの習得を通じて、児童の成長が促進している。

1-②

- ・「岩成っ子タイム（SST・SGE）」の流れを明確に定めることで円滑な進行が図られるとともに、研修リーダーが進行内容や注意点をクラスルームやチャットで共有する体制も整備されている。
- ・毎週展開案が準備されており、教員、児童ともに安心して取り組める環境にある。
- ・授業は「めあて」「展開」「振り返り」の基本の型を徹底することで、経験の蓄積と次への活用へと効果的につなげるようにしている。
- ・学年や児童の実態に応じた指導体制が工夫されている。
- ・各プログラムは明確な目的をもち、児童の意識向上を図るめあてを掲げながら実施している。
- ・定期的な振り返りアンケートで児童の変化を全教員で共有し、研修リーダーがその実態に応じた年間計画を策定している。

1-③

- ・6年生が下級生をまとめたり優しく接したりする姿が多く見られた。
- ・異学年交流を通じて、高学年児童の思いやりやリーダーシップが生まれ、下級生をフォローする機会が増えている。
- ・なかよし班活動は、人間関係づくりや学年を超えた関わりに役立つ場となっている。
- ・委員会活動や行事を通して、児童の責任感や目標意識を育むことができた。特に岩成っ子まつりでは、各学年がもつ役割意識と責任感が発揮され、どの学年の児童も成長した姿を見せてくれた。

<今後の取組に向けて>

1-②

- ・担任が各クラスの実態を最もよく把握しているため、各教員が研修リーダーの指揮のもとで主体的に関与できる仕組を整えることが望まれる。

1-③

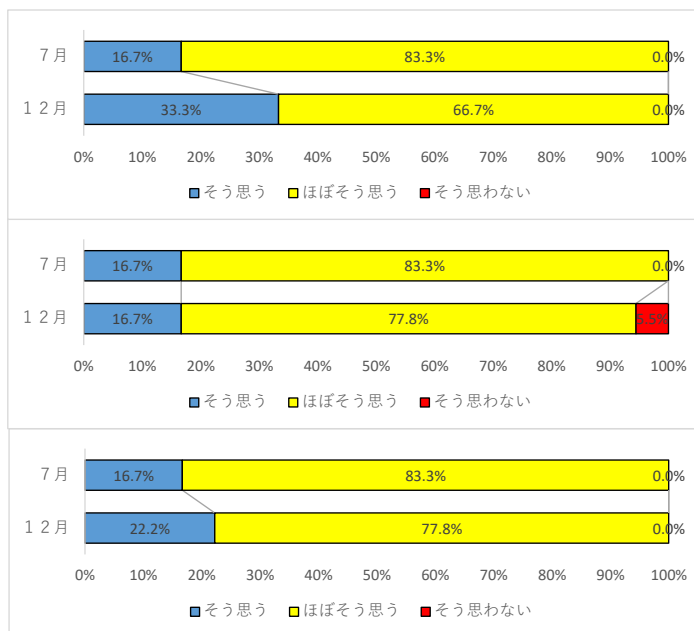
- ・活動を通じて児童にどのような力を育てたいのか、教員が意識をもってした指導を行うことが必要である。
- ・6年生の活躍は、学校全体にとって大きな力となっている。その一方で、それに伴い6年生の児童や担任への負担が増えている面も見受けられる。学校全体で協力し、6年生をよりよい形で支えていけるよう工夫を進めていきたい。

2 学習活動

①教員同士で、学び合いながら授業改善に取り組んでいる。

②一人一台端末を効果的に活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図っている。（キュビナ、ジャムボード、フォーム等）

③児童の思考力・表現力を育てるために、自力解決の場と学び合いの場が相互に機能し合う授業展開を工夫している。



<取組状況>

2-①

- ・公開授業や研究授業を通じて、授業改善や教員の力量向上が図られ、一人一授業公開では互いに授業を見合い学び合う機会となっている。
- ・学年部会や職員同士の情報交換・意見共有を通じて、授業改善が図られている。
- ・教員同士が得意分野を教え合いながらスキルを高め、公開授業シートを活用して参観者の気付きを共有し、授業改善に役立てている。

2-②

- ・タブレット端末を活用することで、児童一人一人に合った学びや、友だちと協力しながら学ぶ活動の充実が図られている。また、朝学習やテスト前にはAIドリル（キュビナ）を使った反復学習が効果的に進められている。
- ・キュビナや付箋紙アプリ（フィグジャム）、プレゼンテーションアプリ（スライド）を適宜活用することで、児童一人一人の学びを深める取組が進んでいる。また、直接話し合う学習活動も取り入れることで、仲間と協力して学ぶ力を育て、学びの幅を広げている。

2-③

- ・授業では、自力解決に挑戦する場を重視するとともに、資料の活用や他者への相談ができる環境を整えている。
- ・授業では、児童の発表や意見交換の場を意図的に設け、児童の考えを尊重し合いながら学びを深める活動を設定している。

<今後の取組に向けて>

2-①

- ・公開授業では、担任している学級がある場合、参観者が少なくなる傾向がある。また、成績処理などの時期によっては、参観の時間を確保することが難しい場合もある。このような課題を改善するため、公開授業の実施時期を見直したり、低・中・高学年ごとに研究授業を行う方法等を検討したい。

2-②

- ・定期的にタブレット端末を持ち帰り、宿題として活用することで、キュビナの活用率を高めることが期待できる。この取組により、教材購入費の削減が可能となると考える。
- ・フィグジャムは操作が難しいため十分に活用されておらず、学年ごとに端末活用の状況にばらつきがある点が課題である。
- ・情報活用能力の系統的な育成も重要な課題として挙げられる。端末をさらに効果的に活用するための方法を模索し続ける必要がある。

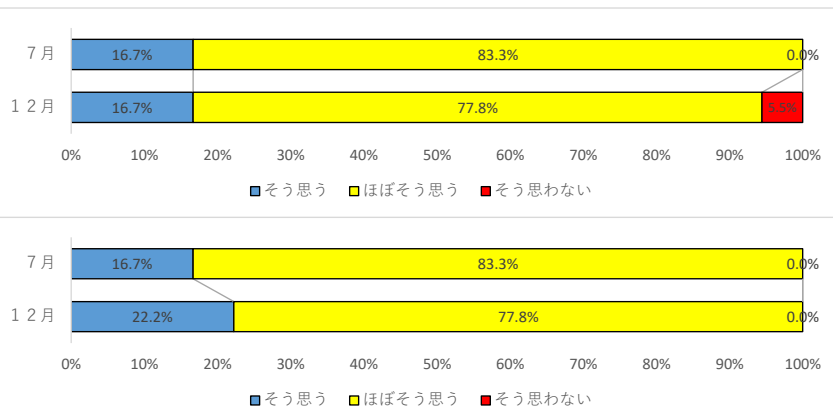
2-③

- ・現職研修で、授業の展開方法、対話を重視した指導法、ICTを有効に活用する方法、評価の方法等をテーマごとに細かく分けて実施することで、授業力向上が一層期待できると考える。
- ・授業改善に向けた教職員のフィードバックの機会がまだ行き届いていない。今後は、教員間で学びの成果を共有するなど、振り返りの場を充実させる必要がある。

3 道徳教育

①「考える道徳」「議論する道徳」の授業が展開できている。（発問の工夫、師範授業や研究授業での研鑽）

②道徳の時間で学んだことを児童が実践できるようにしている。（朱書きや声かけなどのフィードバック、児童の現状に合った授業展開等）



<取組状況>

3-①

- ・授業では、自分の考えを深める時間を大切にするとともに、ペアやグループで考えを発表・共有する機会を意図的に設けている。
- ・授業者が発問を工夫し、ねらいに到達するための道筋を意識しながら授業を進めることで、児童が考えたり、振り返ったりする時間を確保している。
- ・児童が題材を自分事として捉え、道徳的な実践意欲を高められるよう、ロールプレイ（特定の役割を演じる模擬体験）や掲示物を活用している。
- ・岐阜聖徳大学から山田貞二教授を招聘し、師範授業で学んだことを道徳の授業の流れや発問に生かしている。

3-②

- ・道徳の授業では、児童の実態に応じて題材を入れ替えたり、教科書以外に、絵本や日常の出来事も取り入れたりしている。
- ・毎回の授業で自身の行動を考える視点を重視した振り返りを書かせている。朱書きを入れたり声がけしたりするなどの担任によるフィードバックにより、児童の道徳的価値観や行動の変化の把握に努めている。
- ・日常生活の中で道徳の授業で学んだ内容を生かせるよう、児童に関連した声かけを行い実践につなげている。

<今後の取組に向けて>

3-①

- ・授業内容を児童の実態に即したものにするため、今後も道徳の重点目標を意識した授業計画を立て、継続的に取り組んでいきたい。

3-②

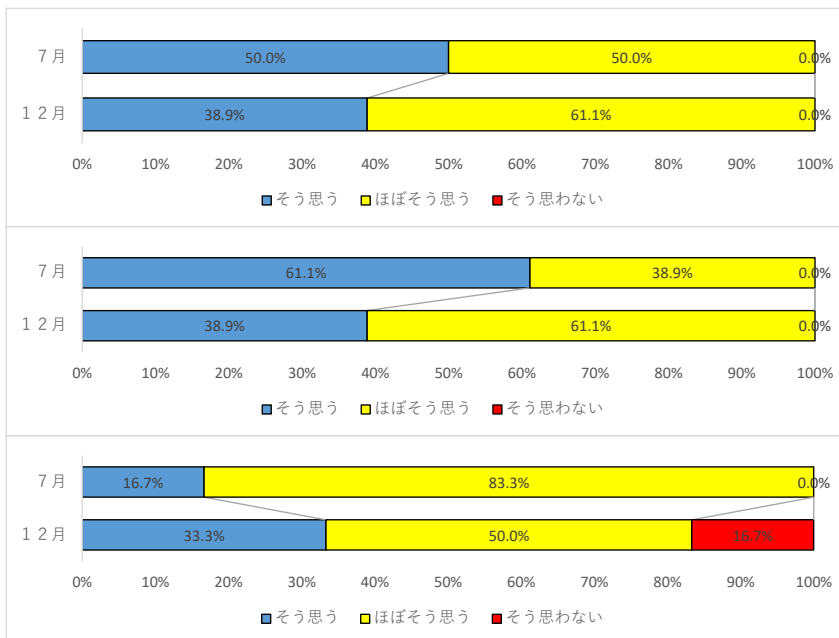
- ・児童の振り返りの記述内容をより深いものにするために、授業展開や評価方法等を引き続き研究・実践していきたい。

4 学級経営

①一人一人の個性の理解ときめ細かな情報交流を通して、児童の成長を支援するための合理的配慮を行いつつ、心に寄り添った指導に努めている。（関係機関との連携、保護者との情報共有、個別の支援、指導計画を通じた支援・指導の充実等）

②ユニバーサルデザインを取り入れた学級づくりに努めている。（仲間意識を育成するための言葉がけ、SST・SGE、教室の掲示物の精選、個人の学びやすさを生かした座席等）

③ 児童の些細な変化などを見逃さないように、心の天気など客観的な資料をもとに早期発見・早期対応に努めている。



<取組状況>

4-①

- ・児童一人一人の気持ちや声に耳を傾け、その状況を理解した上で支援している。また、それぞれの目標達成に向けて合理的配慮を行い、子どものペースに合わせた成長をサポートしている。
- ・教職員、保護者、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、医療機関と連携した合理的配慮を行いながら、児童の個性に寄り添った指導を行っている。
- ・特別な支援が必要な児童に対しては、学校全体で指導方針を話し合い、保護者とも相談の上で個別の支援計画や指導計画を立て、改善を重ねながら進めている。

4-②

- ・視覚的な刺激を少なくするため、教室の掲示物は最小限にしている。また、座席配置を工夫し、落ち着いて学習できる環境を整えている。
- ・ユニバーサルデザイン（UD）の考え方を取り入れ、誰もが理解しやすく、快適に過ごせる教室環境を整えている。
- ・個々の感情や考え方を理解するための振り返りシートを活用し、児童が自己を見つめ直す機会を設けている。また、岩成っ子タイムで学んだ内容を児童が日常生活で実践しやすくするために、具体的な場面を想定した指導を行っている。

4-③

- ・朝の健康観察では、挨拶や声の様子から児童の状態を把握するよう努めている。また、日常のコミュニケーションを通じて児童の表情や態度を観察し、体調や気持ちの変化にいち早く気付けるようにしている。
- ・保護者との連携を密にし、児童理解に努めている。また、教員間でも定期的な会議やケース会議を通じて児童の様子を共有し、課題が見つかった際には迅速に対応できる体制を整えている。
- ・日頃から児童が安心して相談できる環境づくりに努めている。教育相談ではアンケートをもとに児童に寄り添った相談活動を心がけている。

<今後の取組に向けて>

4-①

- ・教員間での児童に関する情報共有が一層円滑に進められるようにしていきたい。また、校内での連携も強化し、児童一人一人に適切な支援を提供できる体制を整えていきたい。

4-②

- ・多様性を受け入れ、自他を尊重する姿勢を育むため、今後も仲間意識や自己有用感を高める声かけを心がけていきたい。また、心ない言葉や行動には適切に指導し、児童が安心して過ごせるクラス環境づくりに努めていきたい。

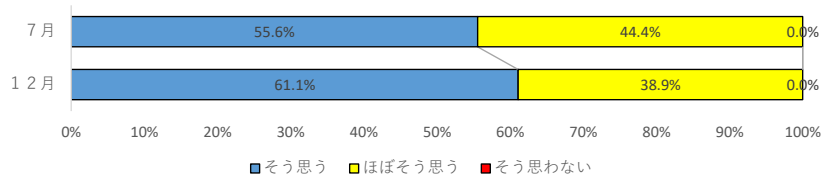
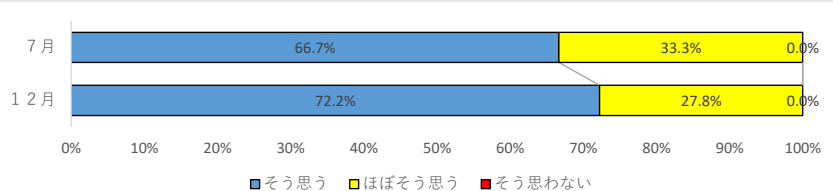
4-③

- ・日常の様子を観察することを継続するとともに、「心の天気」などのアプリを活用して、教員が見落としがちなサインにも気付けるよう努めていく。これにより、児童の様子の変化を早期に把握し、適切な対応ができる体制を強化していきたい。
- ・教育相談をより効果的に行うため、相談時間や期間の見直しなどの改善を検討していく必要がある。また、児童や保護者が安心して相談できる環境をさらに整えていきたい。

5 健康安全

①児童の健康を守るための研修を行い、予防策と緊急時の対応に努めている。

②児童の安全を守るための防犯・防災対策、施設の安全管理などを適切に行っている。



<取組状況>

5-①

- ・アレルギー対応研修（エビペン使用法や誤食防止の対応等）、嘔吐物処理、心肺蘇生法などの研修を計画的に実施し、実践的な危険予防策や緊急時の対応を学んでいる。
- ・感染症予防対策、校内環境整備などの未然防止に向けた取組を行っている。
- ・緊急対応マニュアルの定期的な確認・更新を行うとともに、防災・防犯意識を高めるための研修や避難訓練を実施し、学校全体で不測の事態に備える行動意識の徹底を図っている。これらの取組により、児童の命を最優先に考える姿勢がさらに強化されている。

5-②

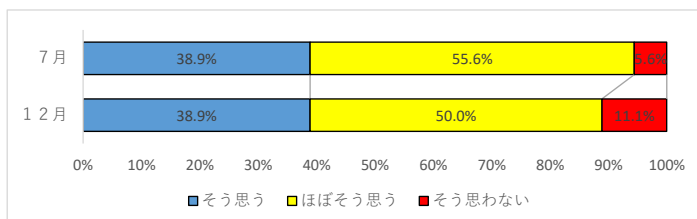
- ・安全点検や日常적인見回りにより、学校施設の安全管理を徹底している。また、地区社会福祉協議会が主催する防災行事への参加を保護者や児童に呼びかけ、地域と連携しながら防災意識を高める取組も進めている。

<今後の取組に向けて>

- ・今後も児童の命を最優先に考えた研修や訓練などを実施し、よりよい改善策があれば提案していく。

6 開かれた学校づくり

保護者や地域に、学校の様子や教育情報を分かりやすく発信している。



<取組状況>

- ・ホームページやH&S、学年通信を活用し、児童の学校生活や授業活動の様子を発信している。
- ・保健活動や児童の健康に関する実態については「ほけんだより」を通じて情報発信を行っている。

<今後の取組に向けて>

- ・2学期末にICT支援員によるホームページアップ研修を行っているので、誰もが柔軟にホームページの更新を行えるような体制に整えていくとよい。